

話題提供 地域でのバリアフリー実践のために

—「おうちを元気に からだを元気に」—
—多摩ニュータウン・ケア連携バリアフリー改修事業の推進にあたり—
横山眞理（（有）横山環境計画事務所取締役）

御略歴

建築設計士。「おうちを元気に からだを元気に」代表提案者
多摩ニュータウンの鶴牧商店街で“100人100様の「暮らし」に合った「住まい」のカルテ（設計図）を作る”をコンセプトに建築+造園設計事務所を主宰。
2009年コーポラティブ住宅「永山ハウス」（多摩市）、2004年コーポラティブ住宅「ヴィレッジ浄瑠璃14」（八王子市）にコーディネーター、設計者として参加。
2007年～多摩市街づくり審査会委員
日本居住福祉学会、多摩ニュータウン学会会員

話題提供 要旨

高齢者や障がいをもった方の住宅改修についての事例集、バリアフリー、ユニバーサルデザインについて数多くの本が出版され、バリアフリー改修を営業項目に加えた建設業者も数多くあります。しかし、本人および家族を含めた当事者にはそれぞれ固有の事情があり、困った時に本当に参考にできる本や頼りになる相談相手を見つける事はなかなか困難です。

これまでは、医師・リハビリ・医療職、福祉職、介護職の方々が、住宅改修というハード部分までの相談やプラン作成に関わってきており、高齢者や障がいをもった方の住宅改修に、建築・まちづくりといったハード部分の専門家が、積極的に関わって来なかったという経緯があります。

バリアフリー住宅改修は、ケアが必要な人のある時点の能力や機能の不都合を補うためだけのものではなく、継続する時間の中で将来も考えた多様で効果的な「住まい」のバリアフリーを実現することです。その実践のためには、様々な専門分野の方との連携が欠かせないと考えています。

「おうちを元気に からだを元気に」事業は、その連携体制整備を目的としたモデル事業です。そのモデル事業の説明を行ないます。特にリハビリテーション専門職、ケア・マネージャー、行政関係者の方との連携体制を築くことは、最終的に地域の方々にとってよい「住まい」が提供される上で重要であると考えており、本学術集会参加者の皆様方からの積極的なご意見・ご提案を期待しております。

「おうちを元気に からだを元気に」取組体制

【医療】ひとみタウンケアクリニック

【設計】有限会社 横山環境計画事務所

【施工】多摩市住宅建設協同組合